

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月 日

協議会名: 東海村地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	東海駅東口～茨城東病院	利用状況, 利用者ニーズに把握に努め, 更なる利用者の増加を図るため, 運行ダイヤの改善に取り組むとともに, 沿線事業所, 自治会への働きかけを行い, 採算氏江を確保すべく取組を強化	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み) <目標・効果> ・利用者数の確保 路線バスの利用者数は, 村内の大規模事業所の通勤に利用されていることも影響し, 増加傾向にあり, 目標を達成することができた。一方では, 地域によって路線バスを利用しない地区も見受けられることから, 引き続き利用促進に努め, 採算性の確保に取り組む。	さらなる利用促進を図るため, 沿線自治会や村内事業所に引き続き働きかけを行い, 採算性の確保に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月 日

協議会名：	東海村地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本村では、平成9年7月から主に交通弱者を対象として(一般住民も利用可能)運賃無料の福祉循環バスの運行を開始した。しかし毎年度の改善策実施にも関わらず、利用者の増加にはつながらなかった。そのため平成15年度より福祉循環バスに代わる新たな公共交通の検討に着手し、運行範囲を村内、利用対象者を村民に限定したデマンドタクシーを導入することとなり、試行運転を経て、平成18年4月から本格運行を開始した。</p> <p>本村は東西、南北ともに約8km とほぼ円形に近く、その中央にJR常磐線東海駅が立地しているなど、デマンド交通の運行に適していることもあり、一定の利用者数を確保し、特に高齢者や障がい者などの重要な移動手段となっている。一方で、村外への利用希望や、村外からのビジネス客や観光客への対応など、デマンドタクシーだけではカバーしきれない課題が挙げられていた。</p> <p>加えて、福祉循環バスの運行開始前まで7路線が運行していた路線バスは、利用者数の減少により5路線が廃止され、残る2路線についても利用促進が必要な状況となっていた。</p> <p>そのような状況を受け、本村では、誰でも利用できる路線バスの運行について、その可能性と利用者ニーズを的確に把握するため、住民・利用者へのアンケートや事業所へのヒヤリング調査を実施し、その結果を基に、平成27年4月から路線バス(4路線)の実証実験を開始した。利用状況については当初の見込みを下回る状況であり、特に新設した2路線については、様々な機会を捉えてのPR活動や、沿線住民に対する初乗りクーポン付きチラシの配布など積極的な利用促進を図ったが、利用者数の増加には結びつかなかった。このような状況を踏まえ、地域公共交通会議で協議を重ね、利用実績が厳しい2路線の実証実験を9月末で終了させた上で、10月から平成28年3月まで、新たな2路線を加え実証実験を6か月延長することとした。</p> <p>その後、地域公共交通会議において、利用状況を注視するとともに、上半期と下半期の運行状況や利用状況などを元に検討を重ねた結果、下半期に運行していた4路線を平成28年4月から本格運行させた。平成28年10月に一部路線の見直しを行い、利用率の厳しい1路線を終了させたことから、平成29年度は3路線の運行を継続していた。さらに、平成30年4月からは、これまで路線のなかったJR常磐線東海駅西側を運行する新路線の実証実験及びデマンドタクシー「あいのりくん」を平日30分延長する実証実験を行うとともに、主に村内事業所による路線バスの通勤利用が開始したことにより、平成30年度の路線バス利用状況は前年度比25,745人増(4路線合計)、デマンドタクシーは前年度比4,260人増であり、それぞれ利用者数は増加している。</p> <p>本村としては、地域公共交通網の整備により、通勤・通学等における利便性の向上はもとより、観光振興・交流人口の増加による地域の活性化も期待できることや、「福祉」「教育」「環境」「まちづくり」の観点からも、公共交通の充実による「『まち』としてのイメージアップ」になるものと捉えている。</p> <p>しかしながら、そこには採算性という大きな課題もあり、何より利用者増に向けた取組みが必要であると考えているが、国や村からの公的な財政支援も公共交通を維持していく上では必要不可欠であり、地域公共交通確保維持事業を活用し、持続可能な地域公共交通の維持・確保に努めていきたい。</p>

令和2年度 東海村地域公共交通会議 (茨城県東海村) (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通等の現況

本村は東西、南北ともに約8kmとほぼ円形に近く、その中央にJR常磐線東海駅が立地しているなど、デマンド交通の運行に適していることもあり、試行運転を経て平成28年4月から本格運行を開始したデマンドタクシーの利用者は一定数を確保しており、特に高齢者や障がい者などの重要な移動手段となっている。一方で、デマンド交通では対応できない課題も挙げられるため、路線バスをはじめとした地域公共交通網の整備により、通勤・通学等における利便性の向上はもとより、観光振興・交流人口の増加による地域の活性化も期待できることや、「福祉」「教育」「環境」「まちづくり」の観点からも、持続可能な地域公共交通の維持・確保に努めていきたい。



一部
交通不便
地域指定

交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

○東海村地域公共交通網形成計画基本方針

行政、村民・関係者、交通事業者との協働により東海村及び周辺地域の公共交通の活力を創造する

1. 快適な村民生活とまちの発展を支えるインフラとしての地域公共を充実する
2. 持続可能な地域公共交通ネットワークを構築する
3. 村民の日常生活の移動手段を確保し、移動制約者の外出を支援することで元気な高齢者を増やす
4. 安全・安心、環境、まちづくりに貢献すると共に、隣接自治体との交流促進を目指す

交通施策として実施した事業の全体像の概要

【路線バスの実証実験】

- ・平成27年4月から路線バス（4路線）の実証実験を開始
- ・平成27年9月に2路線の実証実験を終了、10月からは新たな2路線を加え、4路線の実証実験を6か月延長
- ・平成28年4月から上記4路線を本格運行（うち1路線は平成28年10月の路線見直しで終了）
- ・平成30年4月からこれまで路線のなかったJR常磐線東海駅西側を運行する新路線の実証実験を開始

【沿線事業所との連携】

- ・村内事業所による路線バスの通勤利用が開始

⇒平成30年度の路線バス利用状況：前年度比25,745人増（4路線合計）

補助対象事業の概要

公共交通の空白地区に対して、デマンドタクシー運行時間外の移動手段を確保するため、路線バス（東海駅東口～茨城東病院線）を運行し、沿線地区の利便性の向上を図るとともに、観光やビジネス目的での来村者に対する移動手段を提供する。

【路線バスの運行（運行主体：茨城交通株式会社）】

- ・7時台～20時台の平日：15便／日、土曜：8便／日、日・祝日：14便／日

（デマンドタクシー運行時間は除く）

面積	38.00km ²
人口（R2.4.1時点）	38,381人
15歳未満	5,531人
65歳以上	9,576人
高齢化率	24.95%
世帯数	16,249世帯

交通計画の策定年月日

平成27年3月

協議会開催状況

○第24回【R2.7.21】（書面開催）

- ・地域内フィーダー系統確保維持計画（案）

- ・東海村地域公共交通計画の策定
- ・今後のスケジュール

○第25回【R2.10.19】

- ・利用状況について
- ・2020年度ひたち圏域 MaaS 実証に関する商品造成について【茨城交通株式会社】

- ・東海村地域公共交通計画

○第26回【R3.1.12開催】

- ・利用状況について
- ・新規バス停設置等について
- ・一次評価について
- ・東海村地域公共交通計画（案）

○第27回【R2.3月開催予定】

前回の事業評価結果の反映状況

利用状況、利用者ニーズの把握に努め、更なる利用者数の増加を図るため、運行ダイヤの改善に取り組むとともに、沿線事業所、自治会への働きかけを行い、採算性を確保すべく取組を強化

定量的な目標・効果

【目標】

- ・利用者数の確保
- ・高齢者の公共交通の利用比率向上
- ・高齢者の運転免許返納者数の増加
- ・観光ボランティアガイドの対応者数向上

【効果】

- ・これまでバス路線がなく、ＪＲ常磐線東海駅まで距離がありデマンドタクシー運行時間外において公共交通が空白となる地区を解消できる。
- ・安全、安心、環境、まちづくりに貢献することができる。
- ・隣接自治体等との更なる交流促進を図ることができる。

目標・効果の達成状況

- ・目標：利用者数の確保（令和２年度：60,000人）
- ・対象路線：東海駅東口～茨城東病院
- ・達成状況

【平成31・令和元年度】

- ・H31.04～R1.09：22,414人（122.5人／日、5.58人／便）
- ・R1.10～R1.03：20,154人（110.1人／日、5.05人／便）

（年間実績）42,568人（116.3人／日、5.32人／台）

【令和２年度】

- ・R2.04～R2.09：17,560人（96.0人／日、4.41人／便）
- ・R2.10～R2.11：6,543人（107.3人／日、4.86人／便）

（年間推計）37,189人（101.7人／日、4.64人／台）

<参考>

路線バス全体の利用者数

【平成20年度】39,165人（廃線前の実績）

【平成29年度】53,897人／【平成30年度】79,642人／【令和元年度】78,408人

【令和２年度】62,341人（推計）

アピールポイント

- ◆積極的な利用促進活動の展開
- ◆沿線自治会・事業所との協力
- ◆住民・利用者ニーズの把握
- ・地域公共交通の調査・研究事業（茨城大学への委託事業）
- ・地域公共交通網形成計画の策定
- ・沿線自治会、事業所との協力
- ・ノーマイカーデー呼びかけ
- ・公共交通マップの作成、全戸配布
- ・公共交通フォーラムの開催
- ・公共交通ワークショップの開催

今後の改善点

◆通勤・通学での利用をさらに促し、利用者数の増加を図るため、村内事業所に対する啓発活動（バス通勤の促進、ノーマイカーデー等の取組推進など）を行うとともに、学校等を通した子どもたちへのＰＲ活動を積極的に展開する。

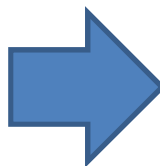
◆沿線自治会との連携をさらに強化し、高齢者や将来の公共交通利用者となる子どもたちへの普及啓発に努める。

◆継続した広報ＰＲ活動を実施し、路線バスやデマンドタクシーの認知度、利用者数を向上させ、持続可能な公共交通網の形成を目指す。

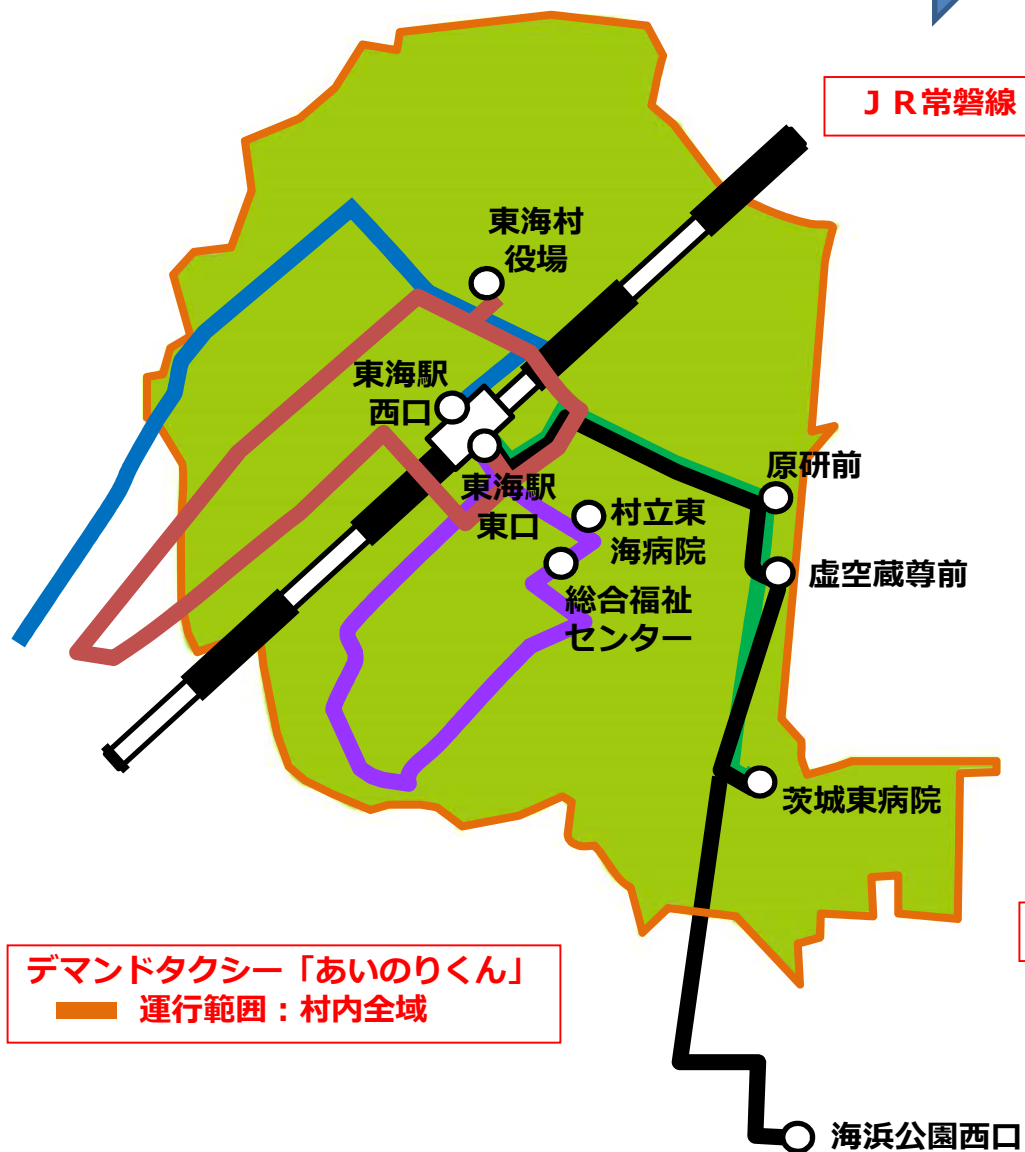
- ・各種イベントでのＰＲ活動の実施
- ・子ども向けチラシの配布
- ・公共交通利用体験会の開催
- ・公共交通ワークショップの開催

【參考資料】

地域公共交通の体系（令和元年.10月現在）



JR常磐線








うち補助対象路線

■【東海駅東口～茨城東病院線】

1	東海駅東口（発）
2	イオン東海店前
3	なごみ入口
4	東海中学校
5	荒谷台住宅前
6	真崎十文字
7	真崎仲町
8	真崎東
9	原研前
10	阿漕ヶ浦
11	虚空蔵尊入口
12	村松宿
13	原子力機構前
14	茨城東病院前
15	茨城東病院

路線バス（6系統）

	東海駅東口～茨城東病院
	東海駅東口～茨城東病院～海浜公園
	東海駅東口～フローレスタ・南台・緑ヶ丘循環線
	東海駅西口～笠松運動公園～水戸駅・茨大前営業所
	東海駅東口～笠松運動公園循環線